

令和2年国民健康・栄養調査の企画について（案）

1. 拡大調査の調査目的

令和2年の国民健康・栄養調査においては、全国の代表値の把握に加え、健康日本21（第二次）の最終評価に向けて、地域格差の把握、分析し、健康づくり施策を展開していくための資料とするため、調査地区を拡大した国民健康・栄養調査（拡大調査）を実施する。

	平成24年	平成28年	令和2年
健康日本21（第二次）の推進	ベースライン 実態把握	中間評価	最終評価
国民健康・栄養調査	拡大調査実施（地域格差の把握）		

2. 過去の拡大調査における標本設計の考え方

過去の拡大調査（平成24年、28年調査）では、地域ブロック別・年齢階級の誤差率がおおむね5%程度となるように1道府県あたり10地区、東京都15地区の475地区（約23,750世帯及び当該世帯の世帯員約61,000人）が必要という考え方で実施した。

表1 平成28年国民健康・栄養調査の体格(BMI)及び生活習慣に関する都道府県の状況

	全国平均	都道府県の状況		上位群と 下位群の差
		上位群	下位群	
1. BMIの平均値 (kg/m ²)				
男性 (20～69歳)	23.8	24.4	23.4	0.9
女性 (40～69歳)	22.6	23.3	22.1	1.2
2. 野菜摂取量の平均値 (g/日)				
男性 (20歳以上)	284	318	258	59
女性 (20歳以上)	270	302	242	60
3. 食塩摂取量の平均値 (g/日)				
男性 (20歳以上)	10.8	11.5	10.0	1.5
女性 (20歳以上)	9.2	9.7	8.5	1.1
4. 歩数の平均値 (歩/日)				
男性 (20～64歳)	7,779	8,264	6,774	1,490
女性 (20～64歳)	6,776	7,200	5,930	1,270
5. 現在習慣的に喫煙している者の割合 (%)				
男性 (20歳以上)	29.7	35.2	25.4	9.9

※都道府県別データを高い方から低い方に4区分に分け、上位25%の群を上位群、下位25%の群を下位群とした。
なお、熊本県は除く。

※比較に用いた値は、各指標の年齢区分における平均年齢で年齢調整を行った値である。

上位群と下位群の差は、四捨五入のため上位群の平均値から下位群の平均値を引いた値とは一致しない。

3. 令和2年調査の客体規模

令和2年調査における調査客体の規模について、過去の拡大調査（平成24年及び28年調査）の結果の精度（誤差率）等を参考に検討した結果は、以下のとおり。

表2 平成24年及び28年調査における誤差率の比較

		8割の都道府県で達成された誤差率	
		平成24年	平成28年
BMIの平均値	男性（20～69歳）	1.5%	1.7%
	女性（40～69歳）	1.6%	1.8%
野菜摂取量の平均値	男性（20歳以上）	4.8%	5.7%
	女性（20歳以上）	4.6%	5.3%
食塩摂取量の平均値	男性（20歳以上）	3.4%	3.7%
	女性（20歳以上）	2.9%	3.5%
歩数の平均値	男性（20～64歳）	5.3%	7.1%
	女性（20～64歳）	5.6%	5.7%
現在習慣的に喫煙している者の割合	男性（20歳以上）	11.9%	11.9%

表3 平成24年及び28年における世帯実施率の比較

	平成24年	平成28年※
調査対象世帯数（世帯）	24,555	24,187
調査実施世帯数（世帯）	12,887	10,745
実施率（%）	52.5	44.4

※平成28年は熊本県（10地区）を除く

令和2年調査の調査客体等は、調査結果の継続性、実行可能性の観点等から以下のとおりとはどうか。

《調査地区数》 1道府県あたり10地区、東京都15地区
 全国475地区の約23,750世帯、約61,000人
 《抽出母体》 平成27年国勢調査地区から、無作為抽出
 《調査時期》 令和2年10月～11月

【参考：平成 24 年調査企画時のシミュレーション結果】

○統計学的に各都道府県の誤差率が5%以下になる地区数

シミュレーションの結果からみて平均値で示す指標（連続変数）の代表例の野菜摂取量（男性・20歳以上）は図1のとおり30～40地区、割合で示す指標の代表例としての喫煙率（男性・20歳以上）は図2のとおり60～70地区で、誤差率が5%以下となる。

また、いずれにおいても地区数が10地区より少なくなると誤差率が著しく高くなる。

図1 野菜摂取量（男性・20歳以上）

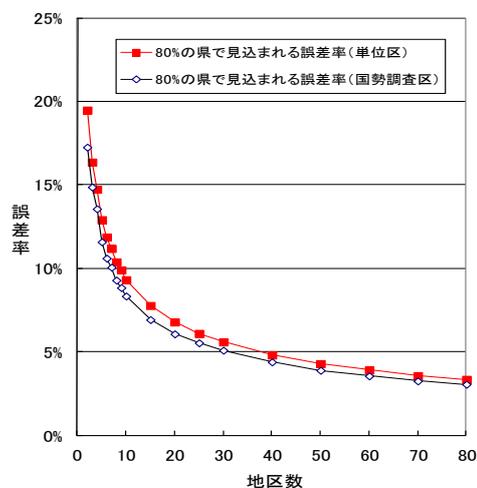


図2 喫煙率（男性・20歳以上）

